

デイリー・ジーザス・ニュース #364

天国におけるイエスの永遠の奉仕

復活したイエスの永遠の未来にわたる言葉と働き

イエスは歴史の最後の出来事を導く

黙示録 6.1, 3, 5, 7, 9, 12; 8.1; 11.15-18; 19.6-9, 11-16; 21.1-4, 22-23

=====

6.1 小羊が七つの封印の最初の封印を解かれると、私は目を釘付けにしていた。すると、四つの生き物の一つが、雷鳴のような声で「来なさい！」と言うのが聞こえた。

(この同じ過程が7つの封印のそれぞれに対して繰り返され、イエスはそれらをすべて開きました。)

8.1 彼が第七の封印を開いたとき、天には約30分間、完全な静寂がありました。

2 そして私は、神の前に立つ七人の御使いを見た。そして、七つのラッパが彼らに与えられた。

(7つのラッパが次々に鳴らされますが、これはイエスが封印を解くことによって開始されたプロセスです。)

11.15 第七の天使がラッパを吹き鳴らすと、天に大きな声が響き渡ってこう言った。

「世界の王国は

我らの主とその救世主の王国、

そして彼は永遠に支配するであろう。」

16 そして、神の前に座していた二十四人の長老たちは、ひれ伏して神を礼拝し、17 こう言った。

「全能の神、主よ、私たちは常にあなたに感謝しています。

存在し、かつて存在した者、

なぜなら、あなたはあなたの無限の権威を永久に確立し、統治し始めたからです。

18 諸国の民は怒りました、そしてあなたの憤りが来しました。

死者が裁かれる時が来た。

そしてあなたのしもべである預言者たちに報いを与えてくださった

あなたの名を敬うあなたの民は、大小を問わず、

そして、地球を破壊し続けている者たちを滅ぼすためです。」

19.5 すると、玉座から声が聞こえてこう言った。

「あなたたちは、私たちの神を賛美するように命じられている。
彼を恐れる者よ、大いなる者も小なる者も！」

6 そのとき、私は数えきれない群衆の声、水のほとばしる轟き、そして大きな雷鳴のような叫び声を聞いた。

「ハレルヤ！
全能者なる我らの神、主が統治を始められたからです。
7 私たちは絶えず喜び、誇って、絶えず神に栄光を帰しましょう。

小羊の結婚式が来た。
花嫁は準備を整え、
8 上質の麻布、光り輝く純潔なもの、
彼女に着るように贈られました。」

9 すると御使いは私に言いました。「私はあなたにこれを書き記すように命じます。

「永遠に招かれた人々は幸いである
小羊の結婚の晩餐に！」

そして彼は付け加えました。「これらは神の真実の言葉です。」

11 私は天が大きく開かれているのを見た。見よ、白い馬がいた。それに乗っている者は「忠実で真実」と呼ばれている。彼は完全な正義をもって裁きを行い、戦いを挑む。12 その目は燃える火のようで、頭には多くの冠をかぶっている。彼には、彼自身以外には誰も知らない名が刻まれている。13 彼は血に染まった衣を着ており、「神の言葉」という永遠の称号を与えられている。

14 天の軍勢が白い馬に乗り、白く輝く細布を着て、イエスに従っていた。15 イエスの口からは、諸国の民を打つために、鋭い剣が出ている。イエスは鉄の笏をもって彼らを治める。」

彼は全能の神の激しい怒りの酒ぶねを踏んでいる。16 彼の衣と腿には、この名が記されている。

万王の王、万主の主。

21.1 わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は過ぎ去り、もはや海もなかった。2 わたしはまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のためにいつも美しく着飾った花嫁のように、常に整えられて、神のもとから天から下って来るのを見た。

3 そして私は御座から大きな声がこう言うのを聞いた。

「見よ、神の住まいは今、民の中にあり、神は彼らと共に住まれる。彼らは神の民となり、神自ら彼らと共にいて、彼らの神となられる。4 神は彼らの目からすべての涙をぬぐい去ってくださり、もはや死もなく、嘆きも叫びも苦しみもない。以前の秩序は過ぎ去ったからである。」

5 御座に座っておられる方が言われた、「見よ、わたしはすべてを新しくする」。そして言われた、「私はあなたに命じる、これを書き記せ。これらの言葉は信すべきものであり、真実である」。

9 最後の七つの災害で満ちている七つの鉢を持っている七人の御使のひとりが来て、わたしに言いました。「さあ、小羊の妻である花嫁を見せよう。」

10 そして、彼は私を御霊によって大きなそびえ立つ山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のもとから天から下って来るのを見せてくれました。

22 わたしは都の中に神殿を見なかった。全能者なる神である主と小羊がその神殿だからである。23 都はそれを照らす太陽や月を必要としない。神の栄光がその光を放ち、小羊がそのともしびだからである。24 諸国の民はその光によって歩み、地の王たちはその栄光を都に携えて来る。

25 その門と外庭は、昼も夜も決して閉じられることがなく、そこに夜もありません。26 諸国の栄光と誉れがことごとくそこに携え込まれます。27 汚れた者、恥ずべきことや偽りを行う者は決してそこに入ることはできません。入ることのできるのは、小羊の永遠の命の書に名が永遠に書き記されている者だけです。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	トルコ沖のギリシャのパトモス島
タイムライン	イエスの昇天から約60年後
イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの永遠の奉仕
	復活したイエスの永遠の未来にわたる言葉と働き
タイトル：	イエスは歴史の最後の出来事を導く

今日の朗読は、DAILY JESUS NEWSシリーズの中で最も長いものです。私は、イエスが将来、歴史の終焉に果たす役割について、黙示録の重要な聖句をまとめました。これは、イエスが天において永遠の宣教活動において果たす言葉と働きの極めて重要な側面です。私たちは誰一人として、これらの言葉について専門家でなければなり得ません。

前回の朗読における礼拝の場面は、七つの封印がされた巻物を取り、それを開くイエスの資格に基づいていました。つまり、イエスだけが、この時代における歴史の最後の出来事を導く資格があり、それはイエスの最後の再臨、すべての人々の裁き、そして地上における永遠の天の統治の確立へと至るのです。この業を成し遂げることができるのはイエスだけです。なぜなら、十字架にかけられた価値ある子羊、イエス・キリスト以外に、神であり人である者はいないからです。

今日の一連の出来事は、イエスが七つの封印を開くことから始まります。これらの封印は、イエスが最終的に地上に戻る前に起こる出来事です。「封印を開く」者として、イエスはこれらの出来事を導き、支配するお方です。

七つの封印は七つのラッパの音へと繋がり、それはイエスの再臨前に地上で起こる七つの出来事を表しています。重要なのは、このプロセスを導いたイエスこそが、これらの出来事を導き、支配する御方であるということです。

七つのラッパの音のクライマックスは、「この世の王国は我らの主、その救世主の王国となり、主は永遠に統治される」というものです。そして24人の長老たちは、宇宙の歴史におけるこの重要な瞬間を神に捧げます。

これは、イエスが目に見えず、知られていない宇宙の支配から、目に見える、直接観察可能な支配へと移行する点を示しています。これは、罪と墮落のあらゆる影響を逆転させる始まりです。義なる王は、遠い昔から約束されていた通り、公然とすべてを支配し、すべてを正すからです。

イエスは支配権を握り、今や七つの怒りの鉢によってすべての罪と反逆を滅ぼされます。これは、イエスが来られる前に、失われた世に厳しい懲罰を与え、彼らに悔い改める最後の機会を与えたイエスの恵みを示しています。彼らが拒むと、イエスは王であり、万物の王であり、万物の主である者として、偉大な力と栄光をもって来られ、地上におけるご自身の統治を認められます。サタンは地獄の定められた場所に永久に追いやられ、地上の反逆的な罪人たちはすべて裁きを受けます。こうして、ついに罪は地上から取り除かれるのです！七つの封印、ラッパ、そして怒りの鉢は、前回のDJNで見た第5章の礼拝の場面へと繋がります。

この聖句の終わりには、イエスの永遠の宣教におけるもう一つの重要な側面が明らかにされています。それは、新しい天と地の創造、小羊の婚宴、そして地上における天国の到来です。

イエスの叱責と人類の罪深さは、地球を荒廃させました。そこでイエスは、天と地を純粋な義と完全な美しさで再創造されます。最初の宇宙創造とは異なり、この新たな創造は、贖われたすべての人類と天の万象によって目撃されるでしょう。イエスが新たな創造において神の力を現されるのは、なんと素晴らしいことでしょう。

イエスが次になさることは、小羊の結婚の宴において、花嫁である教会を抱きしめることです。イエスを夫、教会を花嫁とするこの比喻は、三位一体の神と旧約の民との間の夫婦の比喻に遡ります。洗礼者ヨハネはこれをイエスとその弟子たちの比喻として導入し、イエスはそれをさらに発展させました。新約聖書の残りの部分、特にパウロの著作は、教会をキリストの花嫁として頻繁に言及しています。今、この比喻はイエスとイエスを愛するすべての人々の一致において頂点に達します。天使がヨハネに語ったように。

「永遠に招かれた人々は幸いである
小羊の結婚の晩餐に！」（黙示録19.9）

この比喻表現は実際何を意味しているのでしょうか。第一の戒めは「私たちの魂、思い、思い、力を尽くして神を愛しなさい」ということだということをお願いしましょう。イエスはエフェソスの教会に深く失望されました。彼らがイエスに対する最初のを捨て去っていたからです。私たちが新しい霊的体に変えられたことにより、神の民から罪が永久に取り除かれ、罪とその呪いが新たに創造された天と地にはもはや関係がなくなった今、イエス（花嫁）と三位一体の信者は、残りの永遠の間、完全な聖さの中で三位一体の愛の栄光に生きる準備がついに整います。それは文字通り、私たち全員と三位一体との間の永遠の愛の祭典であり、その規模と深さは現在の私たちの想像をはるかに超えるものとなるでしょう。

地上で最も強烈な愛は、男女間の情熱と熱気に満ちた性交において、特に初めての経験において、二人の間にすべてが完璧に整った時です。これが結婚を完結させるものであり、そしてこれこそが大いなる祝福——小羊の結婚の晩餐——の理由となるのです。結婚式は、熱烈な喜び、祝福、そして希望に満ちた時です。

イエスは、私たち個人と集団としての彼との結合は、三位一体の永遠の愛に意識的に含まれているという、言葉では言い表せないほどの、畏敬すべき喜びと祝福となることを告げています。それは言葉では言い表せないほどの畏敬の念です。だからこそ、現代の人間が経験する最も強力な愛の意識を表す比喻表現が、その表現に用いられたのです。

イエスが導く最後の新たな展開は、文字通り天国が新しい地上に到来することです。イエスは、贖われたすべての民を天国の目に見えない現実の領域から導き出し、地上における完全な物質的顕現へと導きます。私たちは皆、イエスのように霊的な体を持つので、地上の物質性は確かに現実のものですが、ここではそれが主ではありません。地上は神の住まいとして機能します。三位

一体の神と花嫁の存在によって、全地が神の直接的で永続的な臨在の聖域となるため、物理的な神殿は存在しません。エルサレムが首都となります。イエスは全宇宙を管理し続けながら、再び私たちと共に地上を歩まれるでしょう。

ヨハネの黙示録は「黙示録的」と呼ばれる特別なジャンルの文学です。幻やイメージを通して表現されるコミュニケーションは、通常の言葉の使い方とは異なります。多くの人が、あらゆる幻の言葉や細部を分析することに夢中になりすぎています。これは間違いです。黙示録文学のメッセージは、細部ではなく、すべての幻やイメージを統合した全体像にあります。だからこそ、私はコメントの中で携挙説や艱難説には触れていません。結局のところ、それらは重要ではないからです。

私が概説した主要な展開は、栄光に満ちた主イエスが、永遠の天における継続的な御業において、すべての被造物、特に贖われた民、すなわち花嫁に仕えるという全体像の要点です。歴史の頂点と新しい地上における天国の到来はすべて、主の御業です。なぜなら、主は真に万王の王、万主の主、神であり人であるからです。

応用：

イエスは、全世界が迫害されていた時代にヨハネに語りかけ、ご自身が世界を支配しておられ、最終的に世界がご自身の統治を目に見える形で確立される場所となることを明確に示されました。ですから、イエスは生を受けるに値し、ご自身のゆえに死ぬにも値します。地上での生、死、復活、昇天、そして天における永遠の奉仕の継続——栄光に満ちた人生の全編——において明らかにされたイエスの力と栄光の深さを目の当たりにしたとき、私たちはイエスの愛が私たちにもたらすであろう限りの情熱と献身をもってイエスを愛することができるのです。

私たちは、この時代に迫害や犠牲、苦しみに遭っても、主のために生きる覚悟ができています。私たちは主のために喜んで死ぬ覚悟ができています。だからこそ、黙示録にあるイエスがすべての信者に伝えたメッセージは、非常に重要なのです。

イエスの言葉と役割について考えることで、あなたは心を躍らせ、屠られた生ける子羊への愛をさらに深めるよう促されなかったなら、聖霊の力によって、ここにおられるイエスの栄光のすべてを目にすることができるよう祈り、これらの言葉を、イエスへの愛で心が燃え上がるまで何度も繰り返し読んでください。イエスはあなたのすべてを捧げるにふさわしいお方です！